

クオリア構造から見た日本語借用語における 名詞転換動詞の意味解釈メカニズム

呂 雨 珊

1. はじめに

本稿では、Web コメントコーパス¹から抽出した日本語借用語を分析対象として、日本語借用語に見られる名詞転換動詞という現象について分析し、また Web コメントコーパスにおける語例を調査することで、そのメカニズムを明らかにすることが目的である。

2. 日本語借用語の品詞分類

20 世紀の 50 年代に中国語の品詞分類について言語学者の間に大きな論争があった。その中、高名凱（1984）は中国語には語形変化がないため、品詞分類ができないと主張するのに対し、呂叔湘（1954）は品詞を分類しない限り、文法を言えない。結果として、文法を検討する前に品詞分類が必要であるが、具体的にどう分類するのかが問題となった。また、中国語は孤立語であり分析的言語（analytic language）であるため、印欧系言語のような語形変化がなく、文脈や語順などにより変化するため、品詞を分類することが非常に難しいとされた。

沈（2009）では、印欧系言語と中国語の品詞分類について以下の図 1 のように述べている。

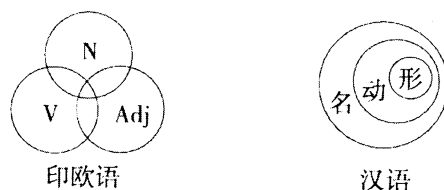


図 1 印欧系言語と中国語の品詞分類

つまり、印欧系言語では名詞、動詞、形容詞はそれぞれ独立し、重なる部分もあるのに対し、中国語では、名詞、動詞、形容詞の間に包含関係がある。名詞が一番大きな分類であり、動詞が名詞に含まれ、形容詞が動詞に含まれていると指摘している。

一方、一つの語彙形式が複数の品詞性を持つことがある。並川（1992:224）によると、一つの語彙形式が名詞と動詞として使われる場合、主に二つのパターンがある。一つは名

詞が動詞として使われるようになったパターンいわゆる名詞転換動詞 (denominal verb) である。もう一つは動詞が名詞として使われるようになった場合、いわゆる動詞転換名詞 (deverbal noun) である。次節では、主に名詞転換動詞について詳しく考察を行う。

3. 名詞転換動詞の先行研究および分析

長野 (2018) では、英語ではあらゆる品詞からの転換が観察され、形容詞から名詞、名詞から形容詞、形容詞から動詞、動詞から形容詞などの転換が観察されるが、最も生産的に転換が見られるのは名詞から動詞に転換したものである。それに対し、中国語において、動詞から名詞への転換いわゆる動詞転換名詞 (deverbal verb) と比べ、名詞から動詞に転換したもののいわゆる名詞転換動詞 (denominal verb) の語例数ははるかに少ない²。また沈 (2010) は「中国語でも英語でも、現代中国語でも古典中国語でも動詞から名詞に転換するのは一般的かつ慣例的な現象であるのに対し、名詞から動詞に転換するのは特別のかつ修辞現象である」と指摘している。

本節では主に中国語における名詞をもとに動詞に転換したもののいわゆる名詞転換動詞 (denominal verb) という現象を考察する。

まず、名詞転換動詞の性質と先行研究を概観する。英語の名詞転換動詞の研究において、先駆的な研究を行ったのは 1979 年の Clack and Clack である。Clack and Clack (1979) の名詞転換動詞について、以下のようである。

- A. Instrument verbs: John bicycled into town.
- B. Agent verbs: John butchered the cow.
- C. Location verbs: He kenneled the dog.
- D. Goal and source verbs: Edward powdered the aspirin.
- E. Locatum verbs: They carpeted the floor.
- F. Duration verbs: Julia summered in Paris.
- G. Miscellaneous: lunch, breakfast, tea; fish, whale, blackberry, rain, snow
(Clark, E.V.&H. Clark 1979)

一方、近年中国語における名詞転換動詞に関する研究も多くなり、徐 (2001)、高 (2009)、王 (2010)、宋 (2013) などがあるが、ここで主に宋 (2013) の研究について詳しく分析する。宋 (2013) では、主に Pustejovsky (1991,1995,2001,2006,2011) の生成語彙論 (generative Lexicon) に基づき、名詞転用動詞は論理的メトニミー (logical metonymy) であると示している。

Pustejovsky の生成語彙論 (generative Lexicon) において、語の意味を項構造 (argument structure)、事象構造 (event structure)、クオリア構造³ (qualia structure)、語彙階層構造 (lexical inheritance structure) の四つ組として表現している。その中、クオリア構

造 (qualia structure) はさらに構成役割 (constitutive role)、形式役割 (formal role)、目的役割 (telic role)、主体役割 (agentive role) の四つの役割によって構成される。クオリア構造について、Pustejovsky (1995: 76) では、具体的には以下のように説明している。

構成役割 (constitutive role) : the relation between an object and its constituent parts

形式役割 (formal role) : that which distinguishes it within a larger domain

目的役割 (telic role) : its purpose and function

主体役割 (agentive role) : factors involved in its origin or “bringing it about”

つまり、構成役割は、対象となる語がどのような要素から成り立っているかに関する知識が記述される。形式役割は語を表すタイプとその間の関係が記述される。目的役割は、対象となる語の機能 (function) や目的 (purpose) が記述される。主体役割は、語の概念がどのように生み出されたかに関する知識が記述される。

例えば、book のクオリア構造は下記のようなものである。

C : bound pages

F : artifact and printed matter

T : read

A : write

上記は book のクオリア構造である。まず C は構成役割を表し、book (本) は綴られたページで構成されていることである。F は形式役割を表し、本が人工物かつ印刷物であると表示されている。T は目的役割を表し、本が人に読まれる read という機能を表示する。A は主体役割を表し、本は人によって書いたことによって生み出されたものであり、write という情報が記述されることになる。

また、Pustejovsky (1995 : 99) によれば、目的役割は次の 2 種類に分けられる。

a. Purpose telic

something which is used for facilitating a particular activity

b. Direct telic

something which one acts on directly

宋 (2013) では、目的役割には直接目的役割 (direct telic role) と間接目的役割 (indirect telic role) の二種に分けられている。前者では目的役割はその名詞に直接的に影響を与える。通常はその名詞が動作の直接目的語である。上記の例では book は read の直接的な対象であるため、read は book の直接目的役割にあたる。それに対し、後者では名詞は動作の間接的な対象である。例えば、洗う (clean) は水 (water) の間接目的役割にあたる。もう一つ特別な目的役割は自然目的役割 (natural telic role) であり、ものの自然的な機能を表す。それ以外、宋 (2013) は Pustejovsky and Jezek (2008) の研究に基づき、因

習的な属性 (conventionalized attributes) は広義のクオリア構造に属すると指摘している。因習的な属性とはものの典型的な用途またはそのものに関連する動きなどである。

増淵 (2018) は目的役割を主体・動作主関連型、被動作主関連型、独立機能発揮型の三種類に分類したが、対象となる名詞が動作の受け手となるような被動作主関連型の目的役割は名詞転換動詞の意味形成に積極的に利用することはないと指摘している⁴。

上記の生成語彙論に基づき、宋 (2013) は、さらに高 (2009)⁵、王 (2010) の先行研究を参考し、現代中国語における名詞転換動詞を主に以下の 10 種類に分けた。

① 道具による転換。

この類の名詞転換動詞はその名詞の間接目的役割を利用して機能と目的を表す。

例 1：把这件行李磅一磅。

この荷物の重さを量ってください。(磅は秤を意味し、ここで量るという動作を表す)
また人体の部位が名詞転換動詞とする場合、その動詞は自然目的役割を使用している。

例 2：我今天不骑车，腿着去。

今日は自転車に乗らずに歩いていく。(足を用いて歩くという動作を表す)

② 素材による転換

この類の名詞転換動詞はその名詞の間接目的役割を利用して作られている。

例 3：中午卤牛肉。

お昼は牛肉の醬油煮を作る。(卤は醬油を意味し、ここで醬油煮という動作を表す)

③ ものの場所による転換

この類の名詞転換動詞はその名詞の間接目的役割を利用して作られている。

例 4：把白菜窖上。

白菜を窖に貯蔵する。(窖はあなぐらを意味し、ここであなぐらに貯蔵するということを表す)

④ 場所による転換

この類の名詞転換動詞はその名詞の間接目的役割を利用して作られている。

例 5：丈夫耐不住寂寞，与别人花前月下下去了。

夫は寂しさを耐えずにほかの女性と密会した。(花前月下で密会するということを表す)

⑤ 覆うもので覆うことを表す。

この類の名詞転換動詞はその名詞の間接目的役割を利用して作られている。

例 6：有次他漆墙从梯上掉下，跌断两根手指。

ある日彼は壁にペンキを塗る時にはしごから転落し、指二本折れてしまった。(漆はペンキを意味し、ここでペンキを塗るという動作を表す)

⑥ 充填物で充填することを表す。

この類の名詞転換動詞はその名詞の間接目的役割を利用して作られている。

例 7：她还必须自己动手为一家老小做衣裤，絮棉袄。

彼女は家族のために服やズボンを作り、綿入れの上着を作らないとはいかない。(絮は綿という充填物を意味し、ここで綿入れの服を作るということを表す)

⑦ 結果による転換

この類の名詞転換動詞はその名詞の主体役割を利用してものの概念がどのように生み出されているのかを説明した。

例 8：片肉片儿。

肉をスライスする。(片は元々スライスという結果状態を意味し、ここで薄切りにするという動作を表す)

⑧ 目的語による転換

この類の名詞転換動詞はその名詞の直接目的役割または主体役割を利用して作られている。

例 9：你为什么不电话我？

どうして電話をしてくれなかったですか。(電話は名詞であり、通常は“打电话”という表現を使用するが、ここでかけるという動作の直接目的役割を使用し、電話をかけることを表す)

例 10：我还没有博客过。

私はまだブログを書いたことがない。(ブログは名詞であり、書くという動作の主体役割を利用し、ここでブログを書くことを表す)

⑨ 主体による転換

この類の名詞転換動詞はその名詞の間接目的役割を利用して作られている。

例 11：统帅三军。

三軍を統率する。(统帅は名詞の総帥を意味し、統率するという間接目的役割を利用し、統率することを表す)

⑩ ものでものの状態にするということを表す

例 12：他弓着腿。

彼は足を曲げている。(弓は元々名詞であり、ここで足を弓のような状態を曲げるということを表す)

上記の 10 種類の名詞転換動詞はほとんどその名詞の目的役割と主体役割を利用して作られたと言える。その中、目的役割は主体役割より多く、間接目的役割は直接目的役割より多くある。それが目的役割に記載される機能や目的、主体役割に記載される概念の生み方や発生する原因などの動詞のような情報が記載されるためであると考えられる。

本稿は上記の先行研究に基づき、Web コメントコーパスを利用し、用例を取り上げ、現代中国語の新語における日本語借用語に見られる名詞転換動詞について分析する。

4. 日本語借用語に見られる名詞転換動詞

4.1 目的語による転換

例 13： 搜一下 0 和 100，第一个视频有惊喜，但不要点赞不要投币不要收藏不要弹幕不要站内分享先缓存。

(0 と 100 で検索して、最初に出てきた動画にサプライズがあるよ。でもグッドボタン、コイン、マイメモリー保存、弹幕やシェアをしないで先にダウンロードして。)

弹幕という語は本来日本語において「多数の弾丸を一斉に発射し、弾丸の幕を張ったようにすること」⁶を表す。最初はニコニコ動画上のコメント機能で、画面が大量のコメントで覆い尽くされることが「弹幕」と呼ばれている。その後、ビリビリ動画も同じ画面上にコメントを表示する機能を導入することによって、「弹幕」という語が中国語でも使用されるようになった。また、コメントが大量に投稿され、画面が埋め尽くされるような状態を「弹幕」と呼ぶだけではなく、コメントそのものも「弹幕」とも呼ばれている。

上記の例 13 から見ると、「点赞 (グッドボタンを押す)」、「投币 (コインをあげる)」、「收藏 (マイリストに保存する)」、「站内分享 (シェアする)」⁷が動詞の情報「点, 投, 收藏, 分享」があるのに対し、「弹幕」は主体役割を利用し、意味形成を行っている。「弹幕」が名詞転換動詞として「弹幕を書く (コメントを書く)」を意味する。つまり、「弹幕」は人の手でキーボードを打つことによって生み出されているため、その中には「弹幕」という概念の生み方や発生する原因などの動詞の意味情報が記載されている。したがって、「弹幕」という名詞転換動詞の意味は元の名詞の主体役割を利用して作られていると考えられる。これは宋 (2013) の分類の⑧に対応する。

4.2 方式 (道具) による転換

例 14： 空耳施工完毕，为什么完整版啊，害我空耳半小时。

(空耳が完成した。なぜノーカット版なのか？そのせいで 30 分ずっと聞いていた。)

日本語借用語の「空耳」というのは遊びの一種であり、歌詞やセリフなどの言葉を全く意味の異なる言葉にすることである。例えば、「Get out of here.」という英語のフレーズを日本語の「下駄飛ぶ日や！」に聞こえる。

例 14 では、二重下線の「空耳」は名詞として聞き取った内容を文字化にするものを表す。一方、下線部の「空耳」は名詞転換動詞として使用されている。ここでは「用空耳 (空耳で聞く)」を表す。つまり、「空耳」は名詞転換動詞の間接目的役割を使用して作られた語である。

4.3 結果状態による転換

王 (2010) ではこの類の名詞転換動詞を次の 7 つに分けられている。(1)形で形になることを表す。(2)排泄物で排泄することを表す。(3)言葉で話すことを表す。(4)添加物で添加物を

表す。(5)書いたもので書くことを表す。(6)結果で変化することを表す。(7)その他。また、高(2009)はこの類の名詞を「産物」と呼び、主体役割を利用して作られたと述べている。つまり、結果状態でその状態における動詞を表すことができる。

例 15：现在看这个封面感觉是黑化了感觉。

(今このおもて表紙を見ると、なんか黒化したような感じがする。)

「黒化」という語はコンピューターゲームの『Fate/Stay Night』に由来する造語であると言われている⁸。人またはキャラクターの性格や外見が冷徹非情に変化することを意味する。元々「黒化」という状態を表す名詞である。例 15 では、「黒化」は名詞転換動詞として、主体役割を使用し、つまり発生や誕生に関する情報が元々存在し、「变成黒化(黒化にする)」動詞の意味情報が記載されている。その主体役割の情報を名詞転換動詞の意味情報にそのまま使用することになる。宋(2013)の⑦「結果による転換」に一致すると考えられる。

例 16：看着看着就泪目了。还好最后在一起了啊。

(見るうちに、涙があふれた。やっとな後に一緒にいた。)

「泪目」は日本語の「涙目」に由来する語であると考えられる⁹。その意味は「目から涙が溢れようとする様子」または「涙ぐんだ目」を表す。主に名詞の意味で使われている。例 16 は泪目が動詞として、「涙があふれる」という意味である。「涙があふれる」という行為の情報は名詞の本来的な概念がどのように生み出されているのかいわゆる主体役割に記載される情報である。そのため、この名詞転換動詞の意味は元の名詞の主体役割を利用して作られていると考えられる。これは宋(2013)の分類⑦に対応する。

4.4 場所による転換

場所名詞の転換について、増淵(2014)は次のように述べている。

「場所名詞の場合には、動作主が対象となる人や物をその場所に移動させると、後は動作主の働きかけがなくても勝手にその場所が機能を発揮してくれるのである。つまり、一度作成してしまえば、その場所が勝手に機能を発揮してくれるのである。」

例 17：所以啊，这~~番~~是要告诉大家，尤其是那些肥宅群体的，别宅在家里吃零食了，多点外出户外活动锻炼该减肥了，老宅在家里很容易有心理疾病的！

(だからね、このアニメがみんな特にデブオタク達に言いたいのは家に引きこもってお菓子ばかり食うんじゃない。もっと外に出て運動してダイエットしたほうがいい。いつも家に引きこもると精神障害になりやすくなるよ！)

ここの「宅」は日本語の「オタク族」に由来する用法である。「宅」は元々名詞であり、「住所、住居」を意味する。日本語の「オタク族」という語を借用することによって、「オタク」の名詞、いわゆる「ずっと家にこもり、ネットや電子ゲームなどインドアスポーツに熱中する人」という意味を取り入れるようになってきた。例 17 の下線部は「引きこも

る」という意味の名詞「宅」を名詞転換動詞にしたものである。元々は「家に引きこもる人」という意味になるのだが、ここで「引きこもる」という意味になっている。「宅」は場所名詞であり、名詞転換動詞として「宅」は動詞「ひきこもる」の場所を意味している。したがって、「宅」という名詞転換動詞は名詞の間接目的役割を使用して作られた語であるとい考えられる。これは宋（2013）の分類④に対応する。

また現代中国語には「宅」の用法と意味に似ている「窩」という従来の場所名詞がある。
 例 18：每天窝在家里沉迷制作 MAD¹⁰，虽然真的很费时间，视频也没啥人看，不过都是自己喜欢的动漫，还是很开心的。

（毎日家に引きこもってMADを作ることにはまっている。確かに時間がかかるし、見る人も少ないが、自分が好きなアニメだから、まあまあ嬉しい。）

例 18 の下線部の「窩」は名詞とする場合、「鳥、獣、虫などがすむ所または人の住む所」¹¹を意味する。人が使う時に、名詞の「窩」の目的役割にはその動作に関する情報が記載されているため、名詞転換動詞になった場合、「窩」はその場所の動作である「引きこもる」という意味になる。ここで例 17 の「宅」の説明と同じことが言える。

4.5 感覚による転換

例 19：要是他们分开之后能各自潇洒我也不会这么怨念了。

（もし彼らは別れても二人とも格好よくなったら私はこんなに鬱々しないよ。）

「怨念」は日本語の「怨念」に由来する語である。「あることに対して生じた悩みや鬱々とした気持ち」を意味する¹²。例 19 では、名詞転換動詞として「怨念」は「(感到) 怨念(鬱々とする)」と意味する。「怨念」は気持ちであり、心で感じることによって生み出されたものであるため、「感じる」という動詞の情報が記載されている。つまり、名詞転換動詞の「怨念」は主体役割を使用して作られたものであると考えられる。

上記の 5 種類の名詞転換動詞を分析すると、「目的による転換」、「方式(道具)による転換」、「結果状態による転換」、「場所による転換」は既に先行研究で紹介した分類であり、「感覚による転換」という新しい名詞転換動詞の例文を取り上げた。ほとんどが名詞のクオリア構造の目的役割と主体役割を利用して作られたということがわかった。また目的役割の間接目的役割を利用する場合が多い。具体的に、以下表 1 のようにまとめた。

分類	クオリア構造	例文
目的語による転換	主体役割	不要点赞不要投币不要收藏不要弹幕不要站内分享先缓存。
方式(道具)による転換	間接目的役割	空耳施工完毕，为什么完整版啊，害我空耳半小时。
結果状態による転換	主体役割	现在看这个封面感觉是黑化了感觉。

		看着看着就泪目了。还好最后在一起了啊。
場所による転換	間接目的役割	所以啊，这番是要告诉大家，尤其是那些肥宅群体的， <u>别宅</u> 在家里吃零食了，多点外出户外活动锻炼该减肥了， <u>老宅</u> 在家里很容易有心理疾病的！
感覚による転換	主体役割	要是他们分开之后能各自潇洒我也不会这么怨念了。

表 1

5. まとめ

本稿では、まず Web コメントコーパスから抽出した日本語借用語を分析対象として、名詞転換動詞という現象について分析し、また Web コメントコーパスにおける語例を調査することで、ほとんど名詞転換動詞は名詞のクオリア構造の目的役割と主体役割を利用して作られたということも指摘した。そして、先行研究で既に紹介した「目的による転換」、「方式（道具）による転換」、「結果状態による転換」、「場所による転換」以外に、「感覚による転換」という新しい名詞転換動詞の分類を取り上げた。名詞転換動詞は中国語においてよく見られる現象であり、名詞から動詞への変化に伴い、意味の変化も生じうる。日本語借用語のメカニズムを明らかにしてその特徴をまとめるのが非常に重要であると考えている。

注

- ① 本稿では Web コメントコーパスとは中国の動画共有サイトであるビリビリ動画を対象として、2018年1月1日から6月30日までに投稿した MAD ムービーというチャンネルのコメントを獲得し、コーパス化したものである。
- ② 王（2010）
- ③ 特質構造とも訳されている。クオリア構造は名詞の意味を記述することが目的である。
- ④ 増淵（2018）
- ⑤ 高（2009）では、名詞転換動詞において、道具や産物が動詞に転換した語の数が一番多く、70%に近いと指摘している。この二種の語は生成語彙論におけるクオリア構造の目的役割と主体役割を利用して説明することが可能である。
- ⑥ 『大辞泉』小学館
- ⑦ ビリビリ動画の機能について、「弹幕（弹幕）」という画面に被さって流れるコメントという人気の機能以外、「いいね（点赞）」、「コイン（投币）」、「お気に入り（收藏）」、「シェア（分享）」などの機能がある。
- ⑧ 闫（2016）
- ⑨ 古典中国語には「泪目」という語の語例はほぼない。唯一の例は唐の韓愈の詩『南山詩』に「时天晦大雪，泪且苦蒙瞽」である。また「泪目」の「涙ぐんだ目」と同じ意味を表す「泪眼」という語はすでに存在する。例えば、宋・欧陽脩『蝶恋花』には「泪

眼间花花不语，乱红飞过秋千去」などである。今日に至るまで広く使われている。一方、現代中国語では、「泪目」の最も古い用例は2012年1月4日の「新浪动漫」に見られる。そのタイトルは「动漫《银魂》六大惊悚变身（アニメ＜銀魂＞の六つの恐ろしい変身）」である。

- ⑩ MAD は MAD 動画、MAD ムービーとも呼ばれている。主に動画や音声編集ソフトを使用し、既存する音声、アニメ、ゲーム、画像、動画などを編集、合成したものを指す。
- ⑪ 『現代汉语词典』（第7版）P1377
- ⑫ 汪磊（2012）『新华网络语言词典』商务印书馆 P198

参考文献

- Clark, Eve V. and Herbert H. Clark. 1979. When nouns surface as verbs, *Language* 55(4),767-811.
- Pustejovsky, James. 1991. The Generative. *Computational Linguistics* 17(4),409-441
- Pustejovsky, James. 1995. *The Generative Lexicon*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Pustejovsky, James. 2001. Type construction and the logic of concepts. In Busa, F.& Bouillon, P.(eds.),*The Syntax of Word Meanings*,91-123.Cambridge University Press.
- Pustejovsky, James. 2006. Type theory and lexical decomposition. *Journal of Cognitive Science* 6,39-76.
- Pustejovsky and Jezek,E 2008. Semantic coercion in language:Beyond distributional analysis. *Italian Journal of Linguistics* 20(1),181-214.
- Pustejovsky, James. 2011. Coercion in a generative theory of argument selection. *Linguistics* 49,1401-1431.
- 並川知恵（1992）「一般化と特殊化：名詞、動詞と名詞変換動詞の意味」*藝文研究*
- 増渕佑亮（2013）「名詞転換動詞に用いられる目的役割の傾向について」*学習院大学英文学会誌*（2013），91-101
- 増渕佑亮（2018）「名詞転換動詞の意味拡張に関する一考察」*学習院大学英文学会誌*（2017），33-48
- 長野明子（2018）「なぜ ice は動詞としても使えるのか?-現代英語における転換-」63-86, 米倉綽・中村芳久編『英語学が語るもの』くろしお出版
- 徐盛桓（2001）「名动转用的语义基础」『*外国语*』第1期，15-23
- 沈家煊（2009）「我看汉语的词类」『*语言科学*』中国社会科学院语言研究所. 38:1-12
- 高航（2009）『*认知语法与汉语转类问题*』上海交通大学出版社
- 王冬梅（2010）『*现代汉语动名互转的认知研究*』中国社会科学出版社
- 宋作艳（2013）「逻辑转喻，事件强迫与名词动用」『*中国语文*』2018年第3期
- 闫彬彬（2016）「创造相似隐喻视角下“黑化”一词的形成」『*中外企业家*』2016年12期